

# グループ概要・事業報告

## 会社概要

商号	古河電気工業株式会社
社長	柴田 光義
創業	1884 年
設立	1896 年 6 月 25 日
資本金 (2014 年 3 月末)	69,395 百万円
売上高 (2014 年 3 月期)	931,781 百万円(連結) 428,301 百万円(単体)
従業員数 (2014 年 3 月末)	47,045 名(連結) 3,590 名(単体)
本社	〒100-8322 東京都千代田区丸の内 2 丁目 2 番 3 号(丸の内仲通りビル)
電話	03(3286)3001

## 事業内容

### 1. 情報通信

光ファイバケーブル、メタル通信ケーブル、半導体光デバイス、電子線材、光関連部品、ネットワーク機器、光ファイバケーブル付属品・工事、CATV システム、無線製品 等

### 2. エネルギー・産業機材

銅線・アルミ線、電力ケーブル、被覆線、電力ケーブル付属品・工事、ケーブル管路材、給水・給湯管路材、発泡製品、半導体製造用テープ、電気絶縁テープ、電材製品 等

### 3. 電装・エレクトロニクス

自動車用部品・ワイヤハーネス、巻線、電子部品材料、ヒートシンク、ハードディスクドライブ(HDD)用アルミ基板材、電池 等

### 4. 金属

伸銅品(板・条・管・棒・線)、機能表面製品(メッキ)、電解銅箔、電子部品用加工製品、超電導製品、特殊金属材料(形状記憶・超弾性合金ほか) 等

### 5. 軽金属

アルミニウムの板材、押出材、鋳物、鍛造品、加工製品 等

### 6. サービス等

物流、情報処理、ソフトウェア開発、不動産賃貸、水力発電等のサービス事業 等

## 海外・国内関係会社(古河電工グループ)

2014年7月現在



## 研究開発体制



FETI: Furukawa Electric Institute of Technology (Hungary)

<http://www.furukawa.co.jp/kenkai/profile/feti.htm>

- Simulation development
- Algorithm development
- Process optimization



OFS Labs. (USA)

<http://www.furukawa.co.jp/kenkai/profile/ofs.htm>

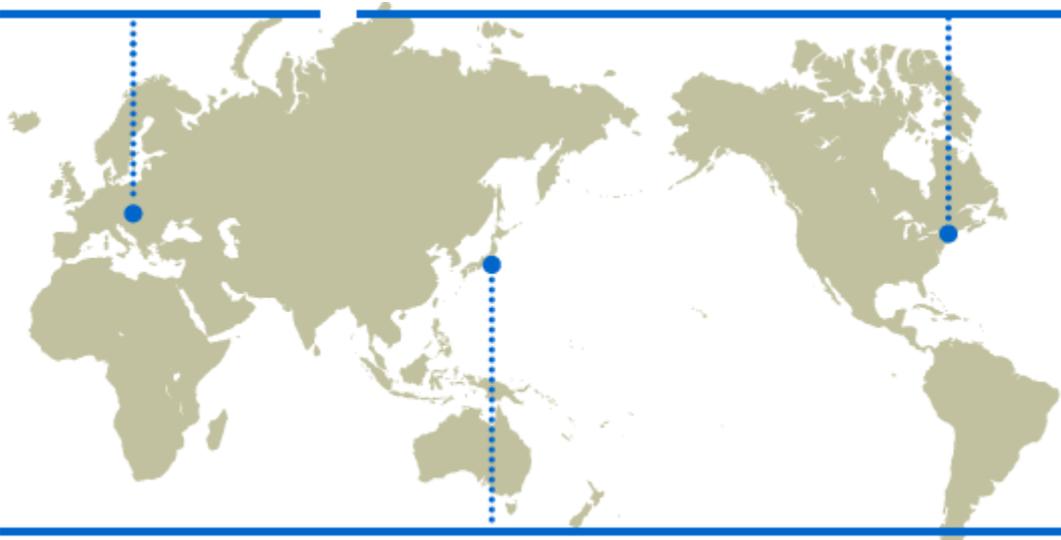
- Fibers
- Components



SuperPower (USA)

<http://www.furukawa.co.jp/kenkai/profile/superpower.htm>

- 2G HTS wire



メタル総合研究所(日光)



パワー&システム研究所(千葉)

ファイテルフォトニクス研究所(千葉)



高分子技術研究所(平塚)

パワー&システム研究所(平塚)

自動車電装技術研究所(平塚)



横浜研究所(横浜)

## 事業紹介

多彩な最先端の技術を活かした幅広い事業で、  
社会に貢献しています。



### 情報通信

マルチメディア時代に応える最先端の光技術。  
高度情報化社会の中核を多面的に支えています。

グローバルコミュニケーション時代とでもいうのでしょうか。インターネットがワールドワイドに張り巡らされ、世界の様々な情報がオフィスはもちろん家庭でもリアルタイムに入手できる環境が整ってきました。こうした高度情報化社会の中、価値ある情報を誰もが快適に利用できるキーテクノロジーが、光・情報システムです。古河電工は、光ファイバ網を一般家庭にまで張り巡らせようという「FTTH」プロジェクトを実現する多彩な技術と製品の提供により、理想のコミュニケーション基盤をしっかりと支えています。

また、2001年にはルーセントテクノロジー社の光ファイバ部門を古河電工グループに加え、様々な先進技術の集約により、光ファイバ、光ファイバケーブル製造における世界トップレベルのグループとなりました。古河電工グループは、今後も更に世界市場進出への取り組みを続けていきます。

情報通信の製品紹介へ

<http://www.furukawa.co.jp/seihin/it.htm>

### エレクトロニクス

進化し続ける半導体とその周辺技術が  
エレクトロニクス産業の新たな可能性を増幅させています。

小型化・高性能化が進むエレクトロニクス製品。それを支え、発展させているのが半導体です。わずか数ミリ四方のチップの上に数十万から数千万の電子素子が組み込まれ、凝縮された情報が処理されていくLSIの世界。古河電工は、この半導体分野において、化合物半導体の素材からデバイスまでを開発。また、半導体周辺を高密度に実装する多彩な

製品、マイクロプロセッサの冷却に不可欠なヒートパイプなど様々な製品を送りだしています。その一つひとつに、長年培ってきた様々な技術が融合されています。

[エレクトロニクスの製品紹介へ](#)

<http://www.furukawa.co.jp/seihin/electronics.htm>

## 自動車

**テーマは、安全性、快適性、そして環境との調和。  
輸送の可能性に、トータルテクノロジーで挑戦しています。**

自動車から鉄道車両、船舶、航空機、HII ロケットにいたるトランスポーター分野でも、古河電工は独自の素材技術、エレクトロニクス技術、メカトロニクス技術を融合し、快適な輸送環境を形づくる様々な製品を開発しています。特に、自動車関連では、ワイヤーハーネスをはじめとする各種エレクトロニクス部品、アルミボディ材を提供、さらに ITS システムなどの先進技術にも挑み、自動車産業になくてはならない存在として、その地位を強固なものにしています。

[自動車の製品紹介へ](#)

<http://www.furukawa.co.jp/seihin/car.htm>

## エネルギー

**省エネルギー・環境保全という時代の要請に応えながら、  
トータルな技術で、高度な電力ネットワークを構築します。**

毎日の生活や産業にとって必要不可欠なエネルギー、電力。古河電工では、発電所から、暮らしのすみずみかまでに電力を送り届ける「送電システム」や「配電ケーブル」を通じ、増大し続ける電力需要に応えています。また、省資源・環境保全という時代の要請にも積極的に対応、次世代エネルギーとして注目される超電導技術や太陽光発電システムなど、多彩な先端技術で社会に貢献しています。

[エネルギーの製品紹介へ](#)

<http://www.furukawa.co.jp/seihin/energy.htm>

## 建築・建設

**先進の素材技術・加工技術を統合させながら  
都市やビル、住宅のアメニティ環境を創造します。**

人間にとって快適な空間とは、どんなカタチをしているのでしょうか。例えそれが都市であってもビルであっても、そのコンストラクションに必要とされるものは、ヒューマンな視点と、理想を実現する高度な技術といえるかもしれません。古河電工は、これまでに蓄積してきたあらゆる技術を応用しながら、快適生活を支える様々な製品を開発してきました。建築材料から電線管路材、防災製品、さらには一般住宅の設備機器まで、その一つ一つに暮らしの機能と環境との調和をめざす古河電工の理想が息づいています。

[建築・建設の製品紹介へ](#)

<http://www.furukawa.co.jp/seihin/construction.htm>

## マテリアル

**素材革新、新素材開発への絶え間ない挑戦が、あらゆる産業での応用分野を限りなく広げています。**

古河電工は、創業以来 120 年以上にわたり、銅・アルミニウム素材から、電線・ケーブル、さらにはこれに端を発したプラスチックなどの各種材料まで、常に時代の最先端を支える素材を提供してきました。そして、絶え間ない素材革新への挑戦は、新たなポテンシャルを持つ素材を生み出し、生活に身近な製品からハイテク分野まで、その応用分野を無限に拡大、私たちの生活や産業の根幹を大きく変貌させています。

マテリアルの製品紹介へ

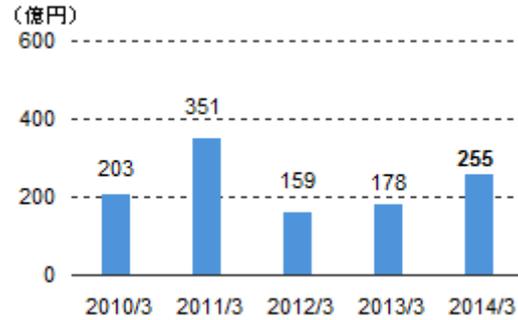
<http://www.furukawa.co.jp/seihin/material.htm>

## 主要な財務指標

### 売上高



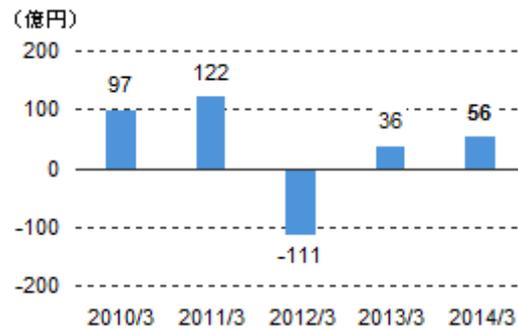
### 営業利益(損失)



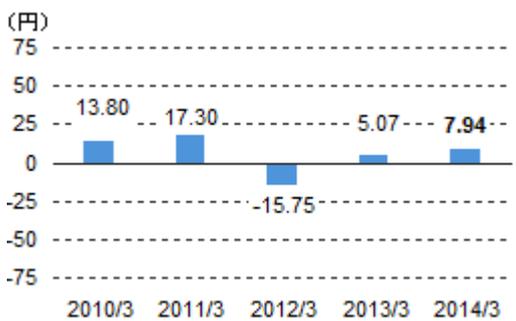
### 営業利益(損失)率



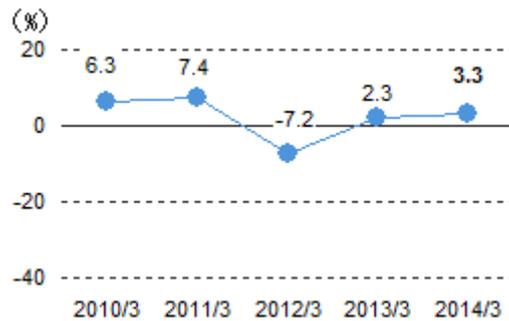
### 当期純利益(損失)



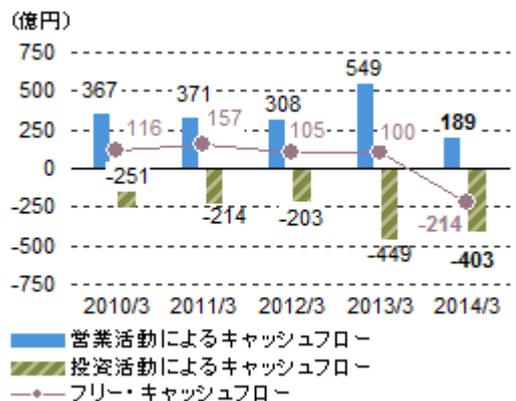
### 1株当たり当期純利益(損失)(EPS)



### キャッシュ・フロー

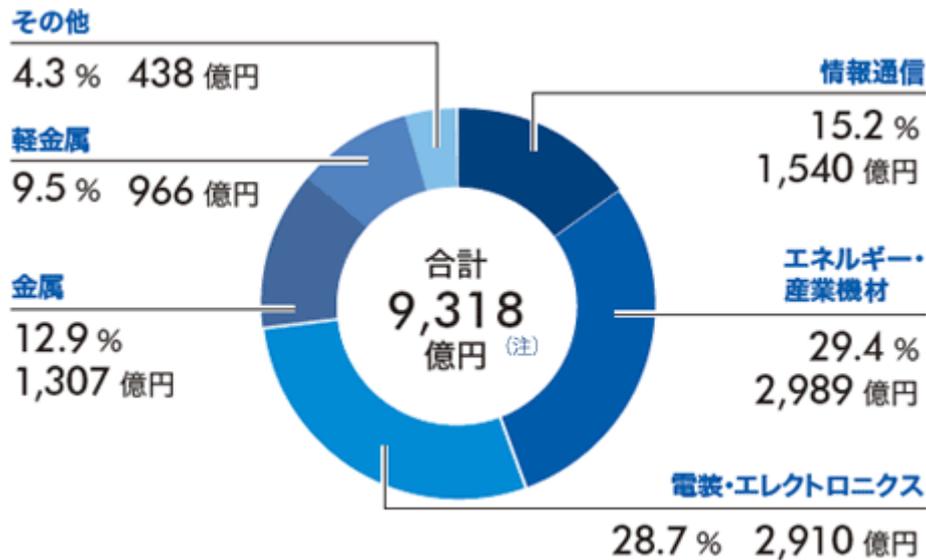


### 株主資本利益(損失)率(ROE)



## 事業セグメント別の概況

セグメント別売上高構成比 (連結 2014 年 3 月期)



(注) セグメント間の内部売上高および振替高を相殺消去した数値です。

## 情報通信

### 光ファイバ・ケーブル

日本: 製造拠点統合による構造改革効果を実現

欧米: 13 年度下半期に実施した固定費削減効果が寄与、市場は回復基調

ブラジル: LAN ソリューション、光ケーブル事業を拡大

### 光部品・ネットワーク機器

日米中: 次世代高速通信(デジタルコヒーレント通信)向け新製品(ITLA/集積型信号光源)の需要が増大

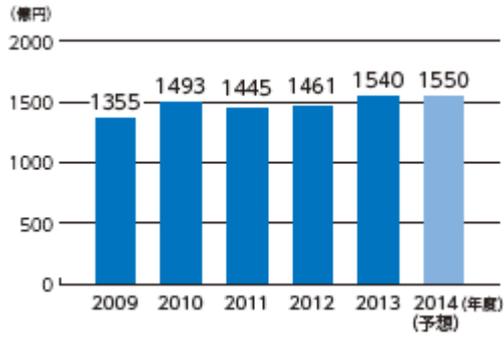


FISA 社(ブラジル)

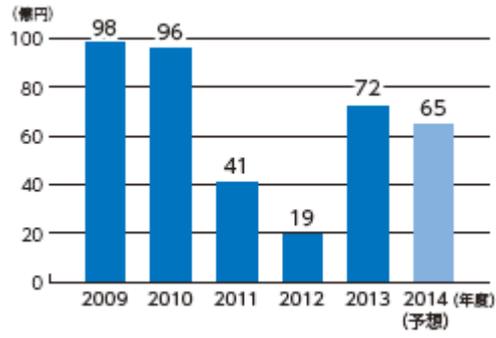


ITLA / 集積型信号光源(上段:従来型、下段:小型版)

売上高



営業利益



エネルギー・産業機材

超高圧送電ケーブル

日本: 洋上風力発電用海底送電線の開発

中国: コスト構造改善を進めた中国子会社が海外市場への拡販を推進

産業機材

欧州: 不採算のロシア拠点売却などにより改善

日本: ケーブル保護用管路材がメガソーラー向けで好調を維持

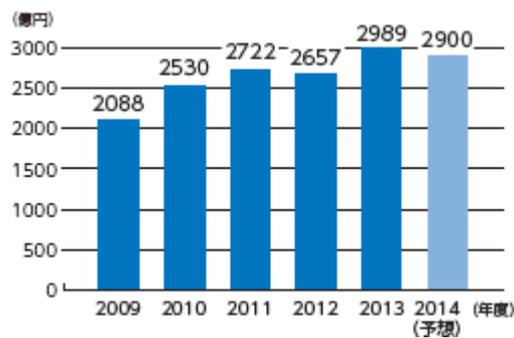


瀋陽古河電纜有限公司(中国)



海底送電ケーブル敷設の様子

売上高



営業利益



## 電装・エレクトロニクス

### 自動車部品

日本：消費税増税後の反動減などによる需要減が見込まれるものの、新車種向けワイヤーハーネスが好調で、国内生産減少の影響をカバー

海外：アジア・メキシコのワイヤーハーネス新拠点の戦力化や南米での SRC 拡販を推進

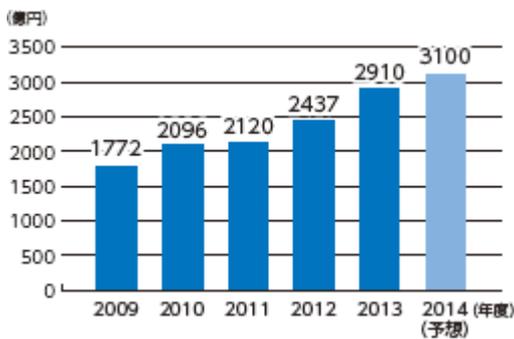


ワイヤーハーネス製造の様子(中国)

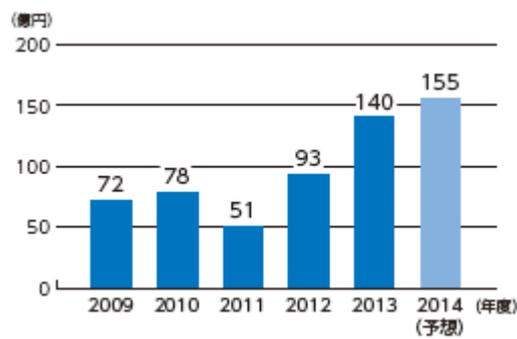


SRC

### 売上高



### 営業利益



## 金属

### 銅箔

日本：拠点集約効果実現と台湾への製造移管の完了で改善

台湾：電池用は車載向けを中心に成長、回路用は数量回復へ

### 銅条

日本：本年2月に発生した日光事業所雪害の影響として、営業利益▲36億円の影響を見込む年内完全復旧の予定

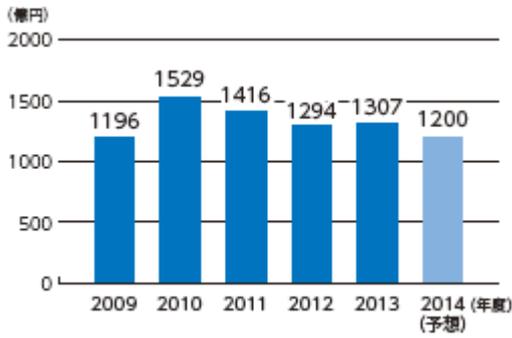


電解銅箔

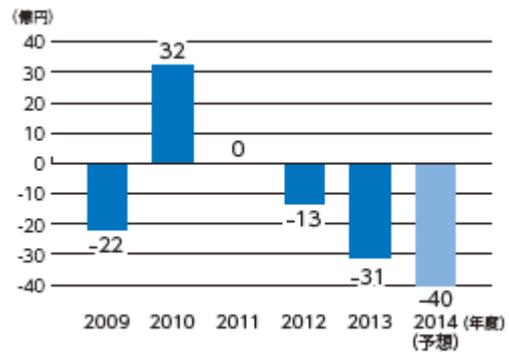


古河銅箔股份有限公司(台湾)

売上高



営業利益

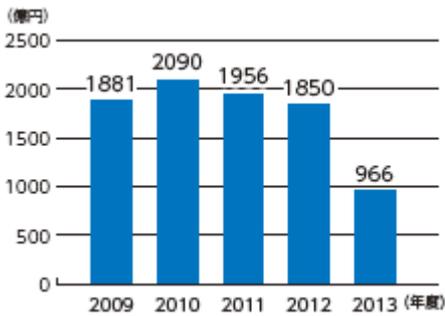


軽金属

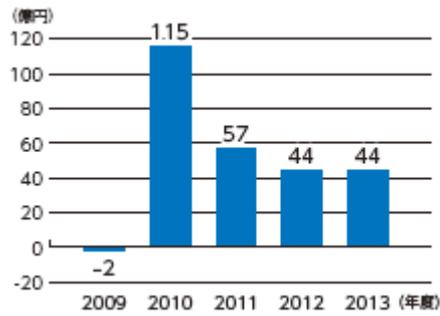
アルミ圧延品

2013 年度営業利益は 2013 年 10 月の UACJ 社発足に伴い、上半期のみ計上  
 下半期からは営業外損益の持分法投資損益に計上

売上高



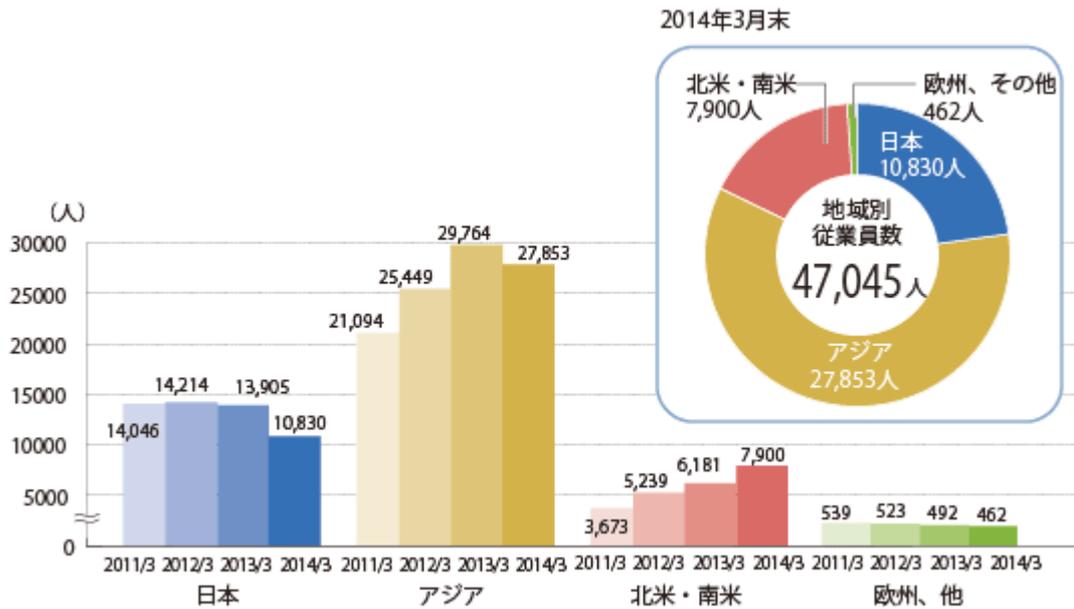
営業利益



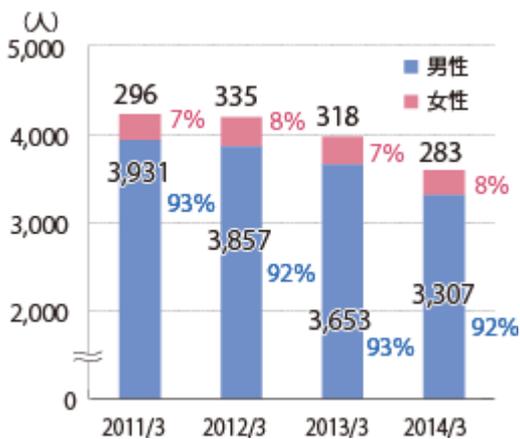
(注)2013 年度下半期および 2014 年度以降は、持分法投資損益に計上

## 主要な非財務指標

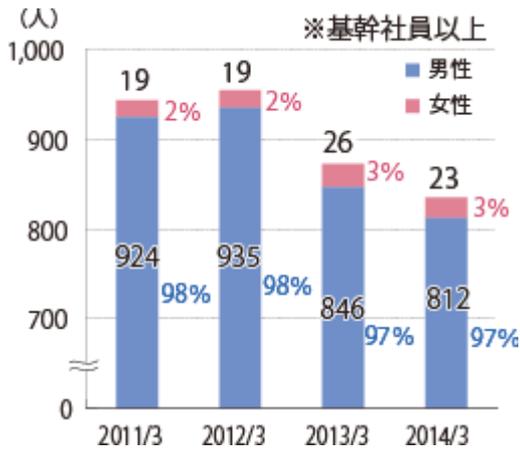
### 地域別グループ従業員数(連結)



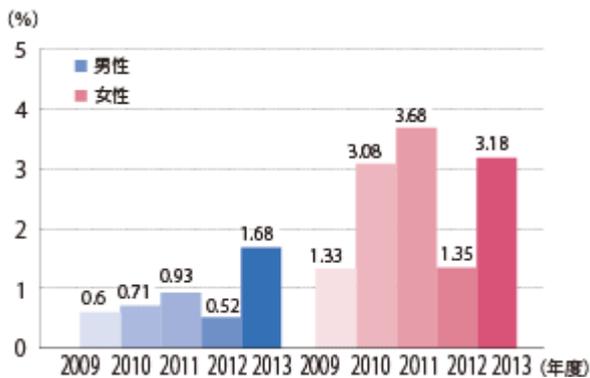
### 男女別従業員数 (古河電工)



### 男女別管理職数(古河電工)



### 男女別離職率(古河電工)



### 環境調和製品の売上高比率



CO<sub>2</sub> 排出量

(注1) 電力使用量の換算は各電力会社の排出係数を使用しています。

(注2) 水力発電分は CO<sub>2</sub> 排出量ゼロとしています。

(注3) 2013 年度から株式会社 UACJ はその他の関係会社に異動したため、過年度数値を遡及修正しています。

## エネルギー消費量



(注) 2013 年度から株式会社 UACJ はその他の関係会社に異動したため、過年度数値を遡及修正しています。

## 非再資源化廃棄物処理量



(注) 2013 年度から株式会社 UACJ はその他の関係会社に異動したため、過年度数値を遡及修正しています。